

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

平成28年の素材の需要量は2,602万9千³で、前年に比べ93万7千³（3.7%）増加した。

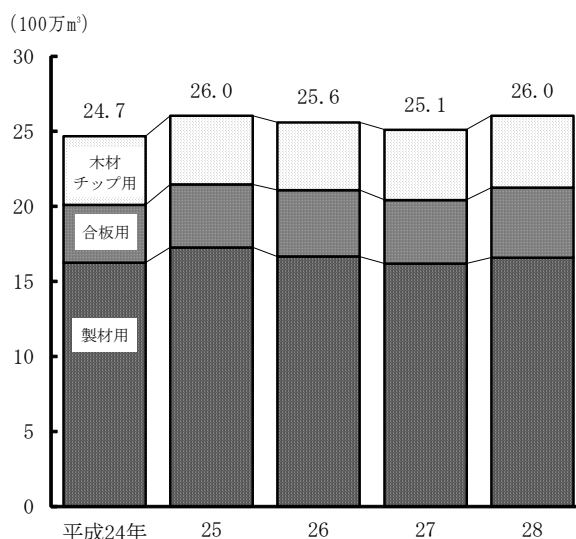
これを需要部門別にみると、製材用は1,659万³、合板用は463万8千³、木材チップ用は480万1千³で、前年に比べそれぞれ製材用は40万8千³（2.5%）、合板用は42万³（10.0%）木材チップ用は10万9千³（2.3%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.7%、合板用が17.8%、木材チップ用が18.4%となった（表1、図1）。

表1 需要部門別素材需要量

単位：千 ³				
年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成27年	25,092	16,182	4,218	4,692
28	26,029	16,590	4,638	4,801
対前年比 (%)	103.7	102.5	110.0	102.3
構成比 (%)				
平成27年	100.0	64.5	16.8	18.7
28	100.0	63.7	17.8	18.4

図1 素材需要量の推移



(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量	2) 製紙パルプ生産量
	千戸	木造住宅 千戸	千t	千t
平成28年	967	546	26,275	8,637
対前年比 (%)	106.4	108.3	100.2	99.0

資料： 1) 国土交通省『建築着工統計』
2) 経済産業省『生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編』

(2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材は2,066万³、外材は537万³で、前年に比べそれぞれ61万1千³（3.0%）、32万5千³（6.4%）増加した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は79.4%となり、前年を0.5ポイント下回った（表2、図2）。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

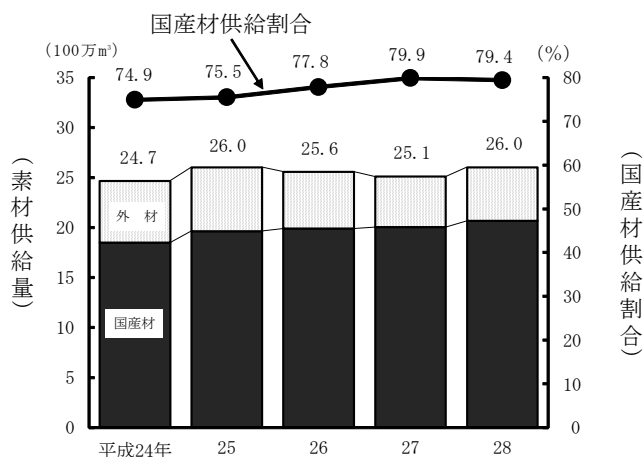


表2 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュー ジランド ド材	その他	
平成27年												
計	25,092	20,049	17,815	2,236	5,045	272	196	3,803	343	473	151	
製材用	16,182	12,004	11,900	105	4,178	79	7	3,259	243	450	146	
合板用	4,218	3,356	3,340	16	864	193	189	544	100	20	5	
木材チップ用	4,692	4,689	2,575	2,115	3	0	0	0	0	3	-	
平成28年												
計	26,029	20,660	18,470	2,188	5,370	243	188	4,106	381	458	179	
製材用	16,590	12,182	12,088	93	4,408	59	4	3,513	230	430	174	
合板用	4,638	3,682	3,667	15	957	184	184	588	151	28	5	
木材チップ用	4,801	4,796	2,715	2,080	5	-	-	5	0	-	-	
対前年比(%)												
計	103.7	103.0	103.7	97.9	106.4	89.3	95.9	108.0	111.1	96.8	118.5	
製材用	102.5	101.5	101.6	88.6	105.5	74.7	57.1	107.8	94.7	95.6	119.2	
合板用	110.0	109.7	109.8	93.8	110.8	95.3	97.4	108.1	151.0	140.0	100.0	
木材チップ用	102.3	102.3	105.4	98.3	166.7	nc	nc	nc	nc	-	nc	
構成比(%)												
計	100.0	79.4	71.0	8.4	20.6	0.9	0.7	15.8	1.5	1.8	0.7	
製材用	100.0	73.4	72.9	0.6	26.6	0.4	0.0	21.2	1.4	2.6	1.0	
合板用	100.0	79.4	79.1	0.3	20.6	4.0	4.0	12.7	3.3	0.6	0.1	
木材チップ用	100.0	99.9	56.6	43.3	0.1	-	-	0.1	0.0	-	-	

注：数値は、四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある（以下の表において同じ。）。

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,847万m³で、全ての需要部門で生産量が増加したことから、前年に比べ65万5千m³（3.7%）増加し、広葉樹は218万8千m³で、全ての需要部門で減少したことから、前年に比べ4万8千m³（2.1%）減少した。

針葉樹を樹種別にみると、あかまつ・くろまつは、前年に比べ10万1千m³（13.0%）減少したものの、素材供給量の6割弱を占めるすぎは、前年に比べ62万2千m³（5.5%）、ひのき、からまつ及びえぞまつ・とどまつも、前年に比べそれぞれ9万6千m³（4.1%）、1万3千m³（0.6%）、4万4千m³（4.5%）増加した（表2、表3、図3）。

図3 樹種別素材生産量の推移

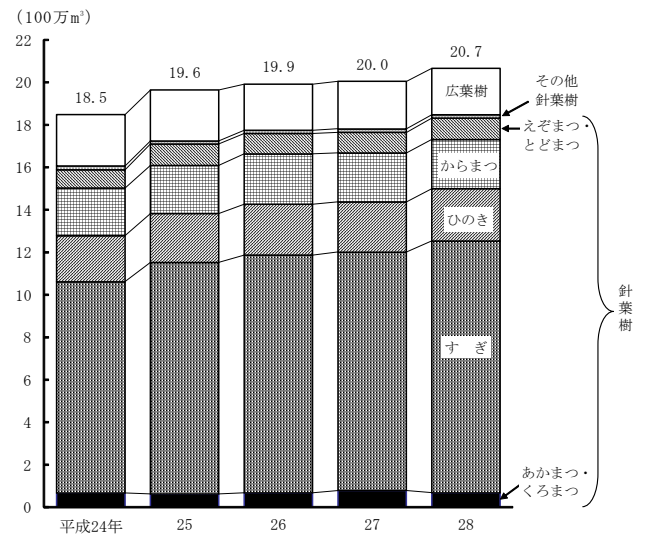


表3 需要部門別、樹種別素材生産量

単位：千m³

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成27年									
計	20,049	17,815	779	11,226	2,364	2,299	969	170	2,236
製材用	12,004	11,900	154	7,869	1,935	1,198	683	55	105
合板用	3,356	3,340	237	2,087	188	687	126	14	16
木材チップ用	4,689	2,575	388	1,270	241	414	160	101	2,115
平成28年									
計	20,660	18,470	678	11,848	2,460	2,312	1,013	153	2,188
製材用	12,182	12,088	128	8,095	1,983	1,150	678	51	93
合板用	3,682	3,667	176	2,280	240	798	157	16	15
木材チップ用	4,796	2,715	374	1,473	237	364	178	86	2,080
対前年比(%)									
計	103.0	103.7	87.0	105.5	104.1	100.6	104.5	90.0	97.9
製材用	101.5	101.6	83.1	102.9	102.5	96.0	99.3	92.7	88.6
合板用	109.7	109.8	74.3	109.2	127.7	116.2	124.6	114.3	93.8
木材チップ用	102.3	105.4	96.4	116.0	98.3	87.9	111.3	85.1	98.3
構成比(%)									
計	100.0	89.4	3.3	57.3	11.9	11.2	4.9	0.7	10.6
製材用	100.0	99.2	1.1	66.5	16.3	9.4	5.6	0.4	0.8
合板用	100.0	99.6	4.8	61.9	6.5	21.7	4.3	0.4	0.4
木材チップ用	100.0	56.6	7.8	30.7	4.9	7.6	3.7	1.8	43.4

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、ニュージーランド材は45万8千 m^3 、南洋材は24万3千 m^3 で、前年に比べそれぞれ1万5千 m^3 （3.2%）、2万9千 m^3 （10.7%）減少したものの、外材の8割弱を占める米材は410万6千 m^3 、北洋材は38万1千 m^3 で、前年に比べそれぞれ30万3千 m^3 （8.0%）、3万8千 m^3 （11.1%）増加した。

また、製材用素材の外材のうち半製品入荷量は40万8千 m^3 で、前年に比べ11万2千 m^3 （37.8%）増加した（表2、表4、表5、図4）。

図4 外材供給量の推移

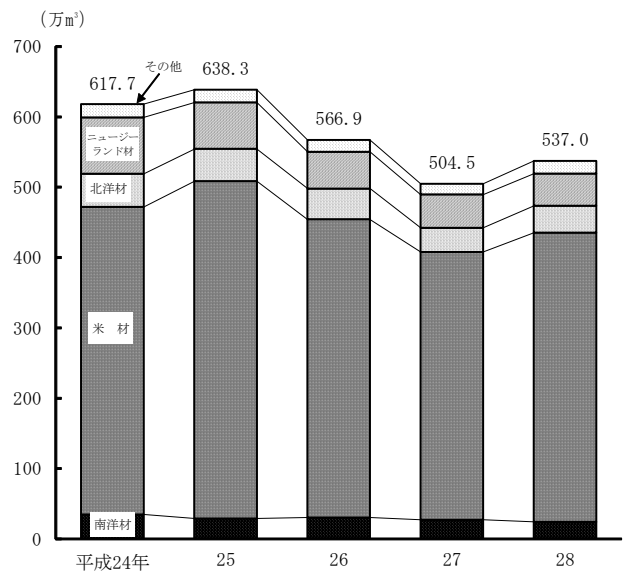


表4 外材供給量

単位：千 m^3

区分	計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成27年	5,045	272	196	3,803	343	473	151
28	5,370	243	188	4,106	381	458	179
対前年比 (%)	106.4	89.3	95.9	108.0	111.1	96.8	118.5
構成比 (%)							
平成27年	100.0	5.4	3.9	75.4	6.8	9.4	3.0
28	100.0	4.5	3.5	76.5	7.1	8.5	3.3

表5 製材用素材の外材のうち半製品入荷量

単位：千 m^3

区分	計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成27年	296	16	1	108	124	23	22
28	408	7	0	131	151	10	110
対前年比 (%)	137.8	43.8	0.0	121.3	121.8	43.5	500.0
構成比 (%)							
平成27年	100.0	5.4	0.3	36.5	41.9	7.8	7.4
28	100.0	1.7	0.0	32.1	37.0	2.5	27.0

2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成28年12月31日現在の製材工場数は4,934工場で、前年に比べ272工場（5.2%）減少した。これを製材用動力の出力階層別にみると、全ての出力階層で減少した。

また、総出力数は62万3千kWで、前年に比べ2万9千kW（4.5%）減少したものの、1工場当たりの出力数は126.4kWで、前年に比べ1.0kW（0.8%）増加した（表6）。

表6 製材工場数、製材用動力の出力数
（各年12月31日現在）

出力階層	単位	平成27年	平成28年	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	5,206	4,934	94.8	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	635	619	97.5	12.5
22.5～37.5	〃	1,033	953	92.3	19.3
37.5～75.0	〃	1,571	1,458	92.8	29.6
75.0～150.0	〃	959	918	95.7	18.6
150.0～300.0	〃	592	573	96.8	11.6
300.0kW以上	〃	416	413	99.3	8.4
総出力数	kW	652,695.9	623,485.9	95.5	-
1工場当たり出力数	〃	125.4	126.4	100.8	-

イ 従業者数

平成28年12月31日現在で操業している工場の従業者数は2万8,057人で、前年に比べ1,053人（3.6%）減少したものの、1工場当たりの従業者数は5.7人で、前年に比べ0.1人（1.8%）増加した（表7）。

表7 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

年次	従業者数規模別製材工場数（12月操業）							従業者数 (12月31日現在)	1工場 当たり 従業者数
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上		
平成27年	工場	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	人
	5,159	3,380	1,090	472	120	63	34	29,110	5.6
28	4,896	3,231	1,024	441	108	58	34	28,057	5.7
対前年比 (%)	94.9	95.6	93.9	93.4	90.0	92.1	100.0	96.4	101.8
構成比 (%)									
平成27年	100.0	65.5	21.1	9.1	2.3	1.2	0.7	-	-
28	100.0	66.0	20.9	9.0	2.2	1.2	0.7	-	-

ウ 製材用素材消費量

平成28年の製材用素材の消費量は1,655万7千m³で、前年に比べ44万6千m³ (2.8%)増加した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、7.5～22.5kW未満、37.5～75.0kW未満、75.0～150.0kW未満及び150.0～300.0kW未満の階層において、前年に比べ減少した。

一方、22.5～37.5kW未満及び300.0kW以上の階層においては、前年に比べ消費量が増加しており、特に消費量の7割弱を占める300.0kW以上の階層においては、前年に比べ73万7千m³ (6.8%)増加した。

なお、1工場当たりの素材消費量は3,356m³で、前年に比べて261m³ (8.4%)増加した(表8、図5)。

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合(平成28年)

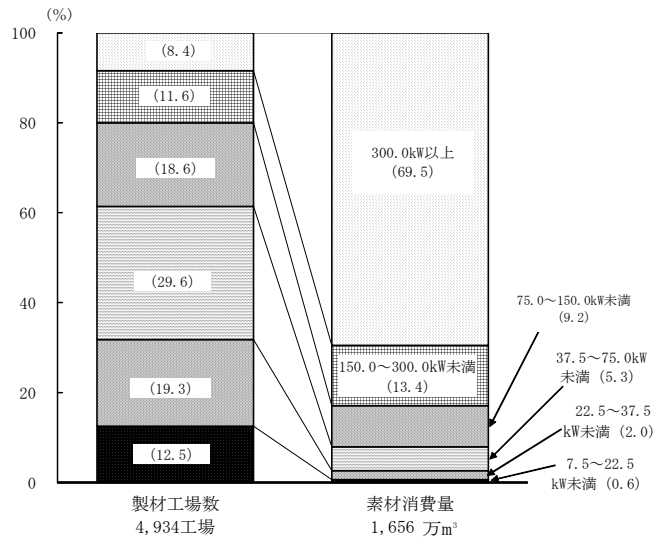


表8 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成27年	平成28年	対前年比	構成比
計	千m ³	16,111	16,557	102.8	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	113	107	94.7	0.6
22.5～37.5	〃	323	332	102.8	2.0
37.5～75.0	〃	1,006	872	86.7	5.3
75.0～150.0	〃	1,648	1,519	92.2	9.2
150.0～300.0	〃	2,240	2,216	98.9	13.4
300.0kW以上	〃	10,776	11,513	106.8	69.5
1工場当たり消費量	m ³	3,095	3,356	108.4	-

エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成28年の製材用素材の入荷量は1,659万m³で、前年に比べ40万8千m³ (2.5%)増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,218万2千m³、外材の入荷量は440万8千m³で、前年に比べそれぞれ17万8千m³ (1.5%)、23万m³ (5.5%)増加した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は73.4%で、前年(74.2%)を0.8ポイント下回った(表9、図6)。

図6 製材用素材入荷量の推移

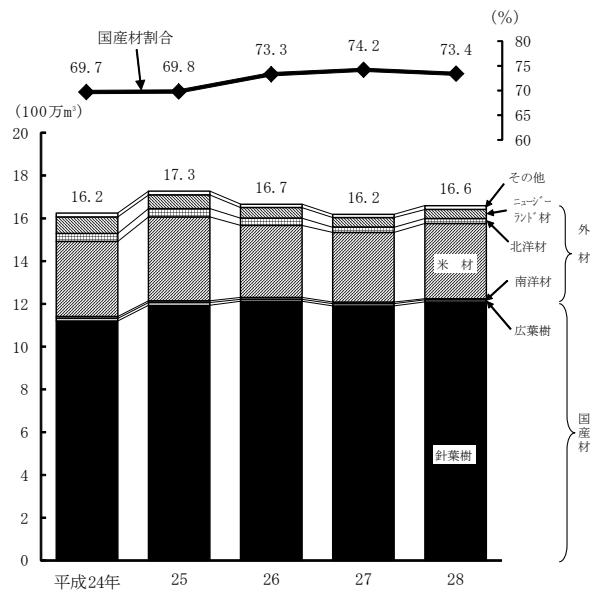


表9 材種別製材用素材入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージ ランド材	その他
平成27年	16,182	12,004	11,900	105	4,178	79	7	3,259	243	450	146
28	16,590	12,182	12,088	93	4,408	59	4	3,513	230	430	174
対前年比 (%)	102.5	101.5	101.6	88.6	105.5	74.7	57.1	107.8	94.7	95.6	119.2
構成比 (%)											
平成27年	100.0	74.2	73.5	0.6	25.8	0.5	0.0	20.1	1.5	2.8	0.9
28	100.0	73.4	72.9	0.6	26.6	0.4	0.0	21.2	1.4	2.6	1.0

(イ) 平成28年に素材の入荷があった製材工場は4,867工場、前年に比べ252工場（4.9%）減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは3,716工場、国産材と外材は874工場、外材のみは277工場、前年に比べそれぞれ190工場（4.9%）、49工場（5.3%）、13工場（4.5%）減少した。

入荷量でみると、国産材のみは1,121万2千m³、国産材と外材は290万9千m³、外材のみは247万m³で、前年に比べそれぞれ20万3千m³（1.8%）、9万4千m³（3.3%）、11万7千m³（5.0%）増加した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の7割を占めている（表10）。

表10 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成27年								
計	5,119	16,182	3,906	11,009	923	2,815	290	2,353
7.5～22.5kW未満	612	120	544	102	51	8	17	10
22.5～37.5	1,005	325	823	250	146	59	36	17
37.5～75.0	1,554	1,012	1,178	777	304	191	72	45
75.0～150.0	951	1,655	656	1,245	222	289	73	122
150.0～300.0	582	2,271	398	1,696	127	368	57	210
300.0kW以上	415	10,799	307	6,942	73	1,907	35	1,950
平成28年								
計	4,867	16,590	3,716	11,212	874	2,909	277	2,470
7.5～22.5kW未満	604	105	535	91	54	8	15	4
22.5～37.5	933	344	773	259	127	74	33	10
37.5～75.0	1,438	859	1,066	661	282	135	90	63
75.0～150.0	909	1,516	643	1,175	214	259	52	84
150.0～300.0	570	2,216	380	1,627	135	364	55	226
300.0kW以上	413	11,550	319	7,401	62	2,068	32	2,082
対前年比 (%)								
計	95.1	102.5	95.1	101.8	94.7	103.3	95.5	105.0
7.5～22.5kW未満	98.7	87.5	98.3	89.2	105.9	100.0	88.2	40.0
22.5～37.5	92.8	105.8	93.9	103.6	87.0	125.4	91.7	58.8
37.5～75.0	92.5	84.9	90.5	85.1	92.8	70.7	125.0	140.0
75.0～150.0	95.6	91.6	98.0	94.4	96.4	89.6	71.2	68.9
150.0～300.0	97.9	97.6	95.5	95.9	106.3	98.9	96.5	107.6
300.0kW以上	99.5	107.0	103.9	106.6	84.9	108.4	91.4	106.8

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は929万3千 m^3 で、前年に比べ6万2千 m^3 （0.7%）増加した。

これを用途別にみると、出荷量の8割強を占める建築用材で、前年に比べ14万2千 m^3 （1.9%）増加した。なお、その他の用途では減少した。

また、人工乾燥材出荷量は342万1千 m^3 で、前年に比べ26万8千 m^3 （8.5%）増加し、製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は36.8%で、前年（34.2%）を2.6ポイント上回った（表11、図7、図8）。

図7 用途別製材品出荷量の推移

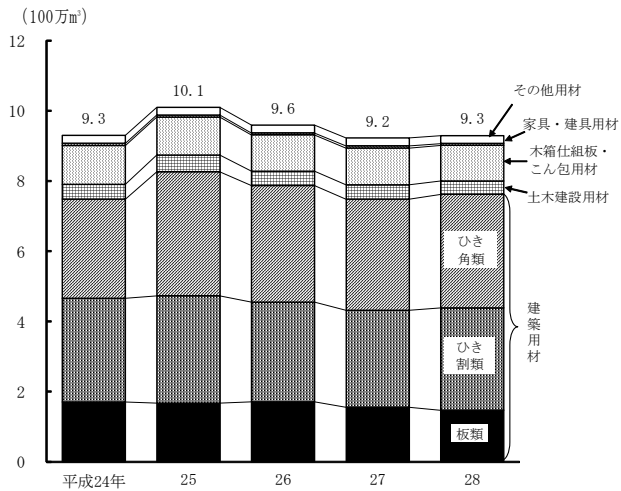


図8 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

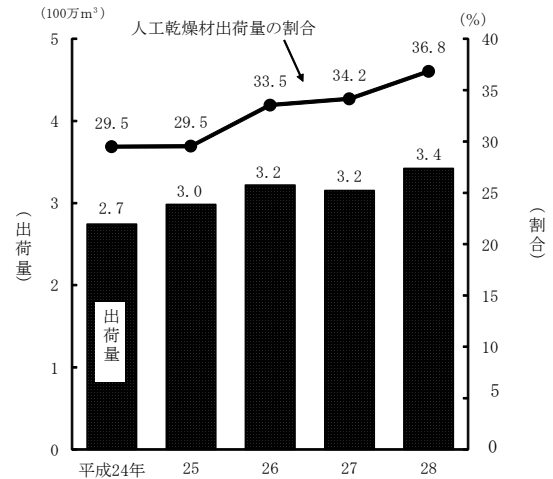


表11 用途別製材品出荷量

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成27年	9,231	3,153	7,481	1,561	2,760	3,162	410	1,048	63	227
28	9,293	3,421	7,623	1,469	2,915	3,238	376	1,019	51	221
対前年比 (%)	100.7	108.5	101.9	94.1	105.6	102.4	91.7	97.2	81.0	97.4
平成27年	100.0	34.2	81.0	16.9	29.9	34.3	4.4	11.4	0.7	2.5
28	100.0	36.8	82.0	15.8	31.4	34.8	4.0	11.0	0.5	2.4

単位: 千 m^3

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成28年12月31日現在の合単板工場数は183工場で、前年に比べ2工場（1.1%）減少した。これを工場類型別にみると、単板のみ及び特殊合板のみを製造している工場は前年並みであったものの、普通合板のみ及び普通合板と特殊合板を製造している工場は、前年に比べそれぞれ1工場（3.2%及び33.3%）減少した。

合単板工場の従業者数は7,046人で、前年に比べ89人（1.3%）増加した。

なお、1工場当たりの従業者数は38.5人で、前年に比べ0.9人（2.4%）増加した（表12）。

表12 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（各年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
平成27年											
計	185	99.5	79	67	14	18	6	1	6,957	99.6	37.6
単板のみ	14	100.0	6	5	-	3	-	-	317	97.5	22.6
普通合板のみ	31	106.9	2	11	4	10	3	1	1)3,687	1)103.4	1)108.4
普通合板と特殊合板	3	100.0	1	-	1	-	1	-
特殊合板のみ	137	97.9	70	51	9	5	2	-	2,953	95.4	21.6
平成28年											
計	183	98.9	74	72	14	17	6	-	7,046	101.3	38.5
単板のみ	14	100.0	7	6	-	1	-	-	305	96.2	21.8
普通合板のみ	30	96.8	1	10	5	10	4	-	1)3,666	1)99.4	1)114.6
普通合板と特殊合板	2	66.7	-	-	1	-	1	-
特殊合板のみ	137	100.0	66	56	8	6	1	-	3,075	104.1	22.4

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成28年の単板製造用素材の入荷量は463万8千m³で、前年に比べ42万m³（10.0%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は368万2千m³、外材は95万7千m³で、前年に比べそれぞれ32万6千m³（9.7%）、9万3千m³（10.8%）増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は79.4%で、前年（79.6%）を0.2ポイント下回った（表13、図9）。

図9 単板製造用素材入荷量の推移

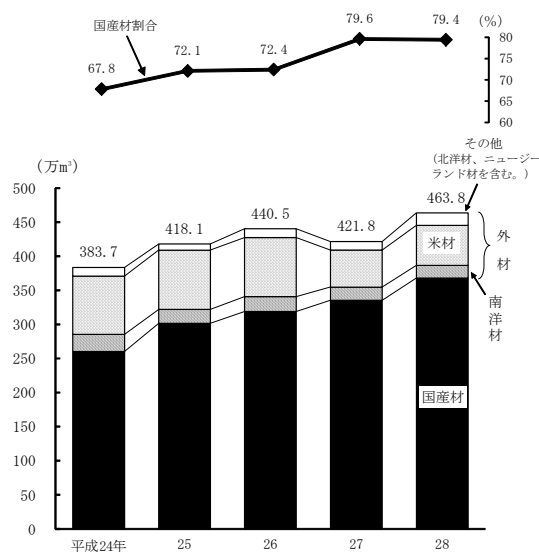


表13 材種別単板製造用素材入荷量

年次	計	単位：千m ³										
		国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージージーランド材	その他
平成27年	4,218	3,356	3,340	16	864	619	193	189	544	100	20	5
28	4,638	3,682	3,667	15	957	495	184	184	588	151	28	5
対前年比 (%)	110.0	109.7	109.8	93.8	110.8	80.0	95.3	97.4	108.1	151.0	140.0	100.0
構成比 (%)												
平成27年	100.0	79.6	79.2	0.4	20.5	14.7	4.6	4.5	12.9	2.4	0.5	0.1
28	100.0	79.4	79.1	0.3	20.6	10.7	4.0	4.0	12.7	3.3	0.6	0.1

ウ 普通合板生産量

普通合板生産量は306万3千³で、住宅需要が増加したこと等から、前年に比べ30万7千³ (11.1%) 増加した。

これを厚さ別にみると、「6mm未満」の階層は前年並みであったものの、「6～12mm未満」の階層で7万4千³ (22.3%)、「12～24mm未満」の階層で10万2千³ (7.5%)、「24mm以上」の階層で13万1千³ (13.0%) 増加した。

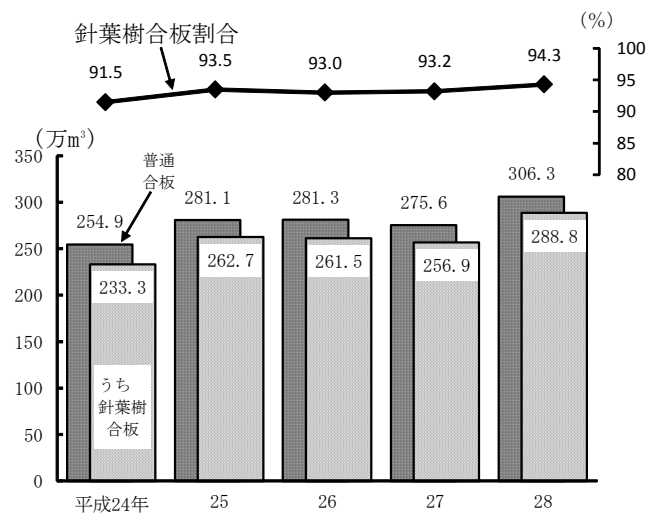
また、生産量のうち針葉樹合板生産量は288万8千³で、前年に比べ31万9千³ (12.4%) 増加した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は94.3%で、前年 (93.2%) を1.1ポイント上回った (表14、図10)。

表14 普通合板生産量

区 分	平成27年	平成28年	対前年比	構成比
	千 ³	千 ³	%	%
普通合板生産量	2,756	3,063	111.1	100.0
6 mm 未 満	58	58	100.0	1.9
6 ～ 12 mm 未 満	332	406	122.3	13.3
12 ～ 24 mm 未 満	1,355	1,457	107.5	47.6
24 mm 以 上	1,010	1,141	113.0	37.3
うち針葉樹合板	2,569	2,888	112.4	94.3

図10 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は64万2千³で、前年に比べ11万8千³ (22.5%) 増加した。

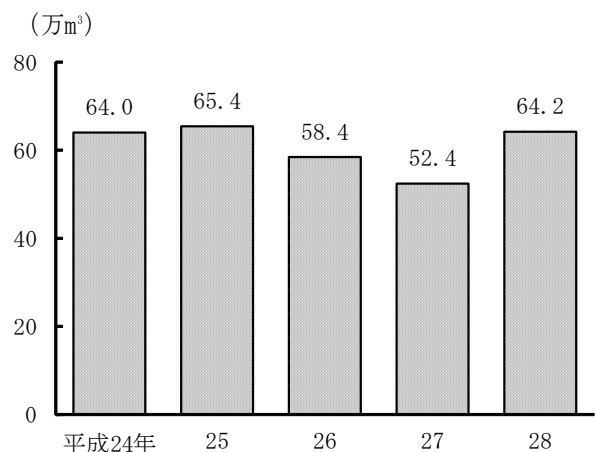
これを種類別にみると、オーバーレイ合板は、前年に比べ2千³ (10.5%) 減少したものの、プリント合板、塗装合板、天然木化粧合板及びその他の合板は、前年に比べそれぞれ1万6千³ (18.8%)、1千³ (33.3%)、5千³ (15.2%)、9万6千³ (25.0%) 増加した。

また、その他の合板のうち木質複合床板は36万4千³で、前年に比べ11万1千³ (43.9%) 増加した (表15、図11)。

表15 特殊合板生産量

区 分	平成27年	平成28年	対前年比	構成比
	千 ³	千 ³	%	%
特殊合板生産量	524	642	122.5	100.0
オーバーレイ合板	19	17	89.5	2.6
プリント合板	85	101	118.8	15.7
塗 装 合 板	3	4	133.3	0.6
天然木化粧合板	33	38	115.2	5.9
そ の 他 の 合 板	384	480	125.0	74.8
うち木質複合床板	253	364	143.9	56.7

図11 特殊合板生産量の推移



(3) 木材チップ製造業

ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成28年12月31日現在の木材チップ工場数は1,393工場で、前年に比べ31工場（2.2%）減少した。

これを専門・兼営区別にみると、木材チップ専門工場は370工場で、前年に比べ13工場（3.6%）増加したものの、製材又は合単板工場との兼営工場は1,023工場で、前年に比べ44工場（4.1%）減少した。

また、木材チップ工場の従業者数（製材又は合単板工場との兼営工場の従業者のうち、主たる業務が木材チップ業務以外のものを除く。）は2,698人で、前年に比べ105人（3.7%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は1.9人で、前年に比べ0.1人（5.0%）減少した（表16）。

表16 専門・兼営区別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数
(各年12月31日現在)

専門・兼営区別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
平成27年									
計	1,424	96.4	1,237	128	49	10	2,803	98.2	2.0
木材チップ専門工場	357	92.7	193	110	46	8
製材又は合単板工場との兼営工場	1,067	97.7	1,044	18	3	2
平成28年									
計	1,393	97.8	1,204	131	49	9	2,698	96.3	1.9
木材チップ専門工場	370	103.6	200	116	47	7
製材又は合単板工場との兼営工場	1,023	95.9	1,004	15	2	2

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

平成28年の木材チップ用の素材入荷量は480万1千m³で、前年に比べ10万9千m³（2.3%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、大層を占める国産材は479万6千m³、外材は5千m³で、前年に比べそれぞれ10万7千m³（2.3%）、2千m³（66.7%）増加した（表17、図12）。

図12 木材チップ用素材入荷量の推移

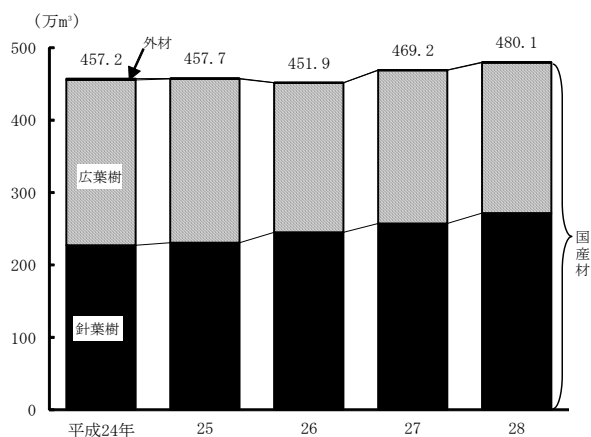


表17 材種別木材チップ用素材入荷量

年次	計	単位：千m ³									
		国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューシード材	その他
平成27年	4,692	4,689	2,575	2,115	3	0	0	0	0	3	-
28	4,801	4,796	2,715	2,080	5	-	-	5	0	-	-
対前年比 (%)	102.3	102.3	105.4	98.3	166.7	nc	nc	nc	nc	-	nc
構成比 (%)											
平成27年	100.0	99.9	54.9	45.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	-
28	100.0	99.9	56.6	43.3	0.1	-	-	0.1	0.0	-	-

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

木材チップ生産量は582万6千tで、前年に比べ8万1千t（1.4%）増加した。

これを原材料別にみると、林地残材及び解体材・廃材は、前年に比べそれぞれ1万8千t（17.1%）、1万3千t（1.1%）減少したものの、素材（原木）及び工場残材は、前年に比べそれぞれ9千t（0.4%）、10万6千t（5.7%）増加した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、広葉樹は134万2千tで、前年に比べ1万1千t（0.8%）減少したものの、針葉樹は328万9千tで、前年に比べ10万6千t（3.3%）増加した（表16、図13）。

表18 木材チップ生産量

区 分	平成27年	平成28年	対前年比	構成比
	千t	千t		
木材チップ生産量	5,745	5,826	101.4	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,558	2,567	100.4	44.1
工場残材	1,870	1,976	105.7	33.9
林地残材	105	87	82.9	1.5
解体材・廃材	1,207	1,194	98.9	20.5
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	3,183	3,289	103.3	-
広葉樹	1,353	1,342	99.2	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図13 木材チップ生産量の推移

